

MLF2006 プログラム

日時：2006年5月13日（土）、14日（日）

会場：東京大学（駒場キャンパス）

共催：東京大学 21 世紀 COE プログラム「心とことば—進化認知科学的展開」

5月13日（土）

研究発表（一般）

13:30~14:10

畠山真一，加藤恒昭，伊藤たかね（東京大学） 高知方言からみた思考動詞の語彙的アスペクト

14:10~14:50

ナロック・ハイコ（東北大学） 日本語自他動詞対の類型論的位置づけ

15:00~15:40

岸田眞樹（神戸松蔭女子大学大学院） 「自分」束縛に関わる述部と先行詞の語彙的性質

15:40~16:20

菅原剛（東北大学大学院） Persuade as an Infinitive-Taking Psych Verb

16:30~17:10

玉井尚彦（京都外国語大学・大阪経済大学非常勤講師） 統語・意味と形態の対応—結果構文の統語的分析から—

5月14日（日）

特別セッション：「意味役割理論の新展開」

10:00~10:40

加賀信広（筑波大学） 接頭辞 OVER-の分析—意味役割理論の観点から—

10:40~11:20

加藤鉦三（信州大学） デ格と二格の名詞句が担う意味役割

11:30~12:10

黒田航，李在鎬，井佐原均（情報通信研究機構） 文中で名詞句が担う意味役割は「曖昧」になるのではなく，「複合」的になるだけである—複層意味フレーム分析（MSFA）からの知見 研究発表（一般）

1:30~2:10

浅尾仁彦（京都大学大学院） 分析性からみた日本語複合動詞

2:10~2:50

望月圭子（東京外国語大学） 中国語における補文関係の V-V 型複合動詞—日本語との対照から—

3:00~3:40

玉岡賀津雄（広島大学），レVENT・トクソー（チャナッカレ・オンセキズ・マルト大学，トルコ）新しく造られた短縮形の‘若者言葉’の波及—広島地域における世代差および性差からの検討—

3:40～4:20

當野能之 (神戸大学大学院) スウェーデン語の動詞・不変化詞構文における項の実現

4:30～5:10

岸本秀樹 (神戸大学) 否定辞のスコープと主要部移動